

室津港  
物揚場（-2 m）  
全景  
施設全体が海側へせり出し（約70 cm）、エプロンが破損した。

上部工およびエプロン被災状況  
上部工とエプロンの目地開き約  
20 cm。  
また、上部工は海側へ最大約  
4° 傾いた。



船揚斜路上の漁船の倒壊  
当港の地震の大きさを物語っ  
ている。





室津港  
 物揚場 (-3 m)  
 (直立消波ブロック式)  
 上部工およびエプロン被災状況  
 上部工背後のエプロンが約 50 cm  
 沈下した。また、上部工も最大約  
 3° 傾いた。

エプロン被災状況  
 エプロン沈下約 50 cm



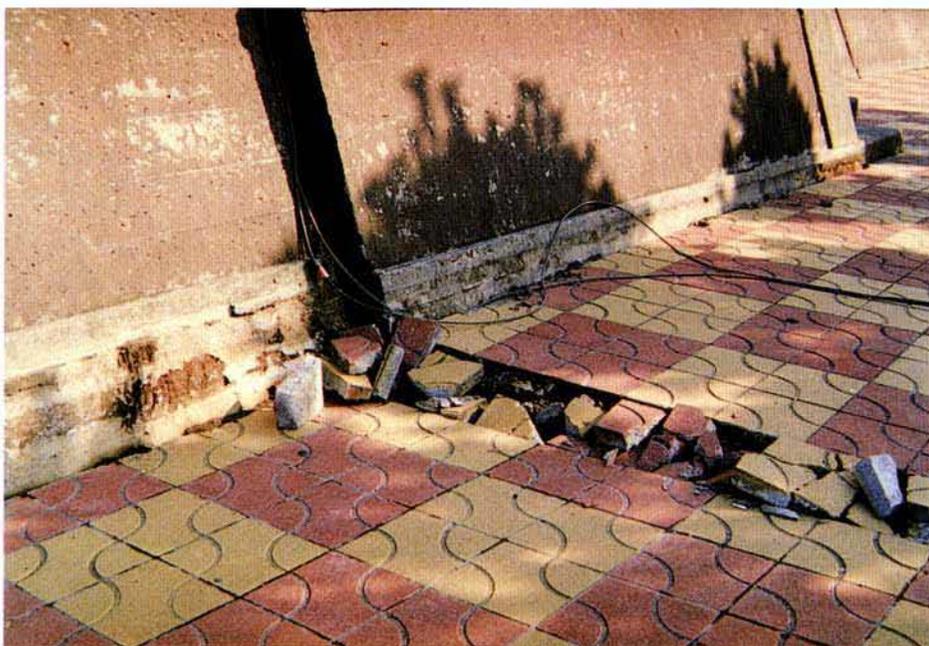
室津港での災害査定状況  
 (-2 m物揚場)





岩屋港  
護岸（防波）  
本体ケーソンの移動により隙間が  
見られる。  
手すりに引っ張られた形跡が見ら  
れる。

エプロン部の沈下60cm

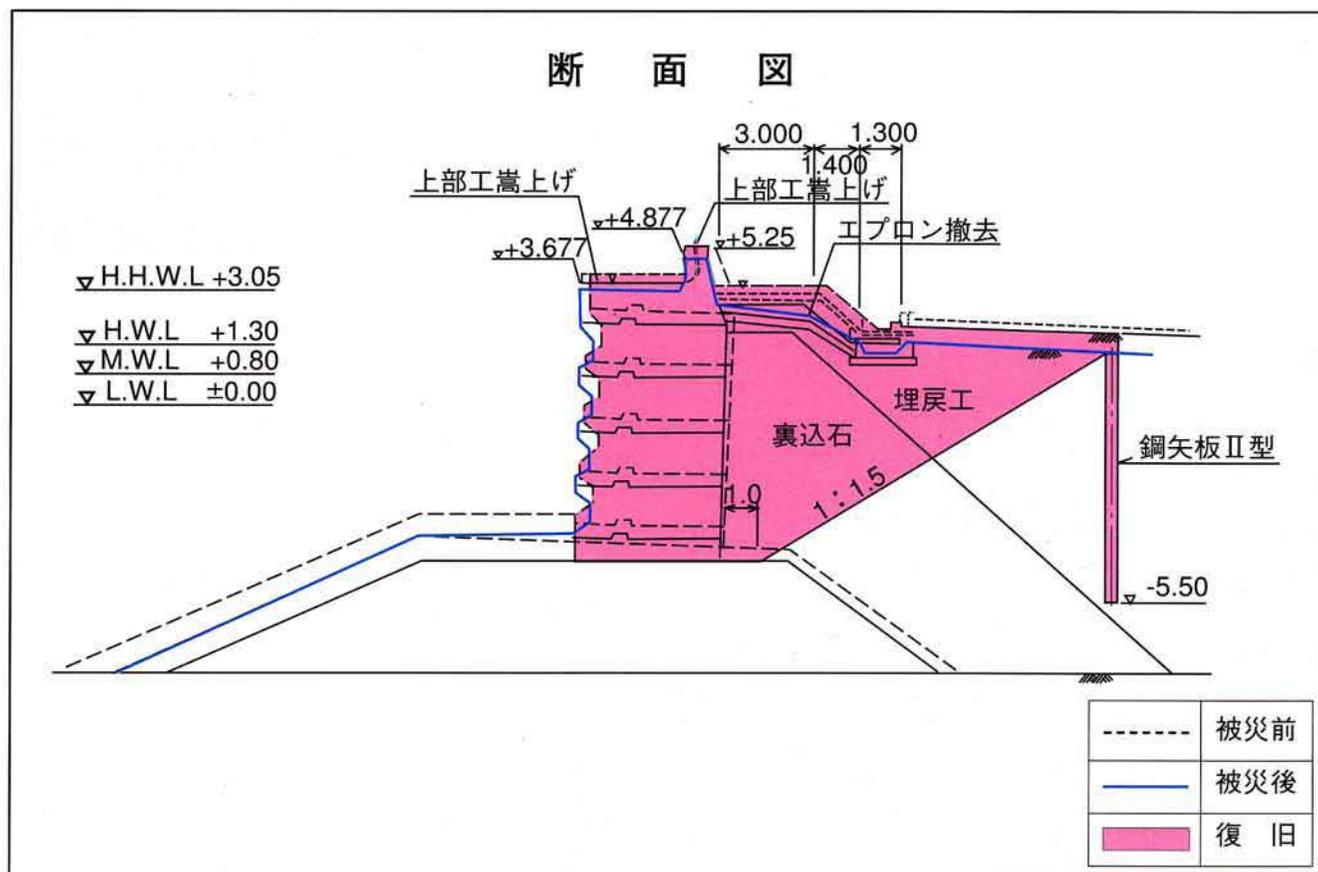


本体の移動による上部工のずれ  
カラー平板の損傷



### 工法決定理由

本体が沈下および前傾して安定計算上危険な状態にある箇所については、本体ブロックの据え直しを行う。また、計画天端高より沈下している所は嵩上げをすることとした。エプロン部は沈下が著しいため嵩上げすることとした。



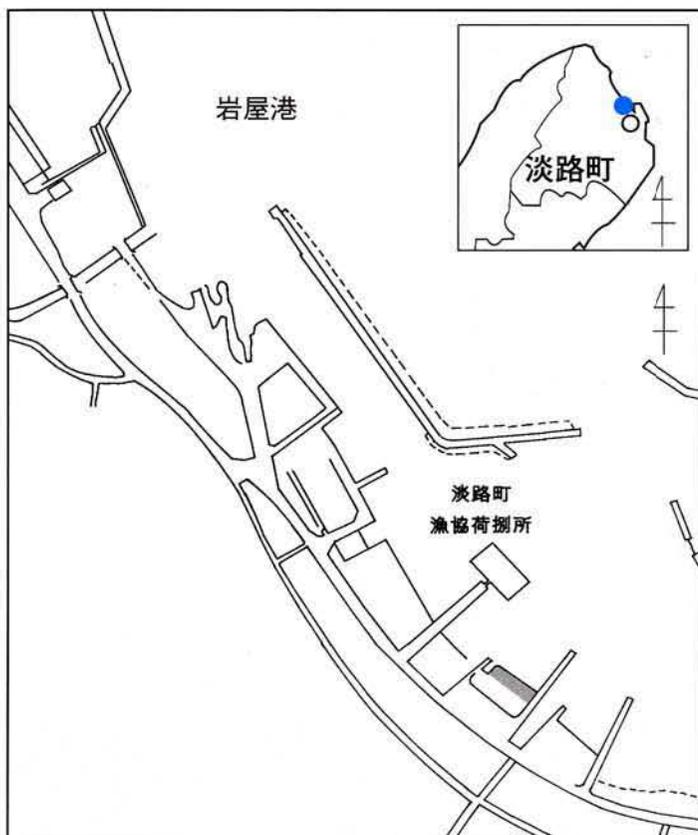


岩屋港  
物揚場 (-2 m)  
水叩きの沈下により50 cmの段差が生じた。  
本体も前傾した。

水叩きと側溝との間の開き  
30 cm

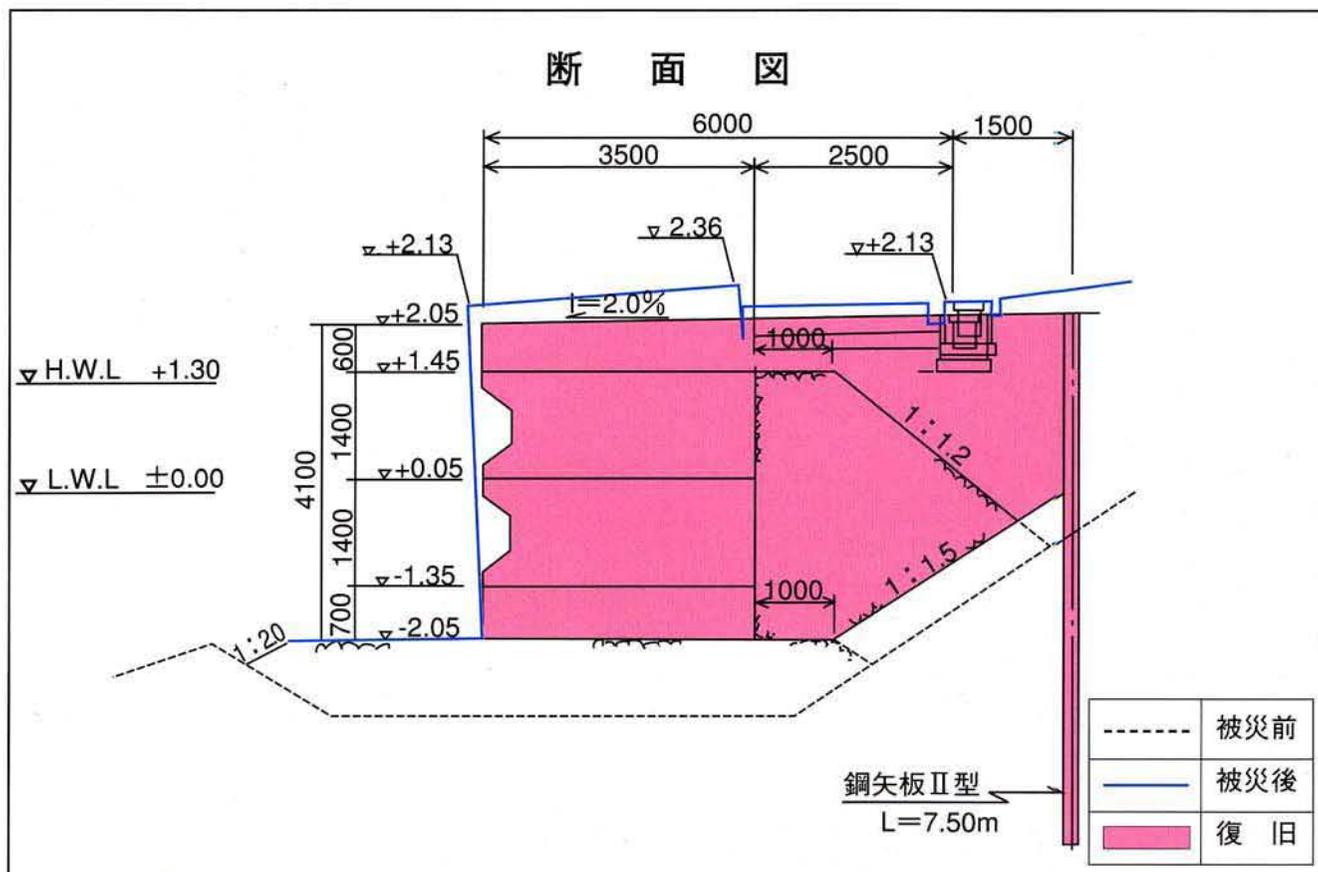


本体ブロックの移動により、地面まで隙間が生じている。舗装コンクリートも割れている。



### 工法決定理由

本体が大きく前傾し、安定計算上危険な状況にある。埋め立て土の流出も著しく、水叩きも50cm程沈下して物揚場の機能が損なわれている。このため全面的にやり直す事とし、本体ブロックの据え直し、埋め立て工、上部工、水叩舗装工を実施する。



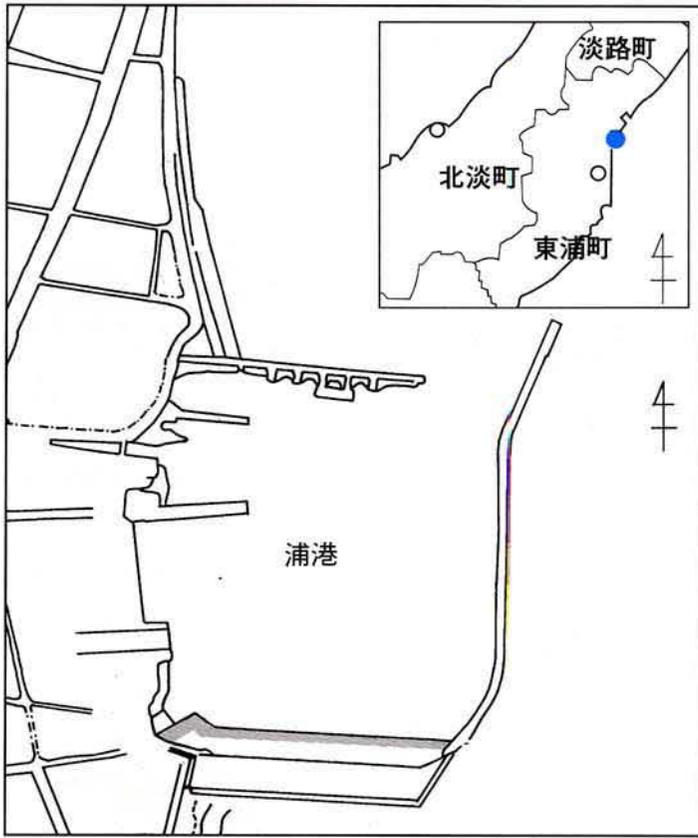


浦港  
物揚場 (-2 m)  
本体工の押し出し、および背後の  
地割れ

本体工とエプロンとの目地  
開き

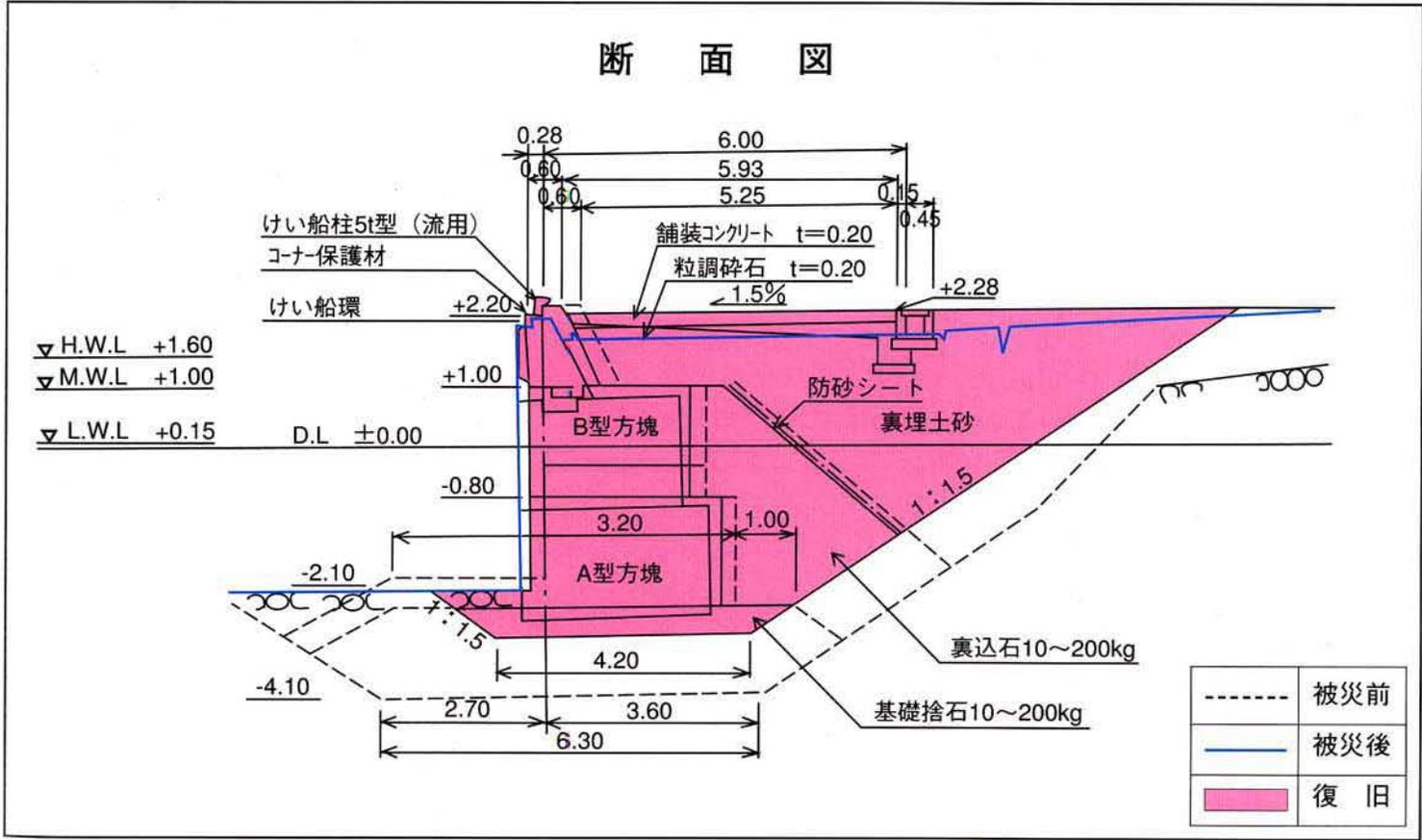


護岸法線のずれ、および地割れ



**工法決定理由**  
 本体工の前傾および沈下が大きく安定計算結果が規準を満足できなかった。  
 よって据直して原形復旧。

## 断面図

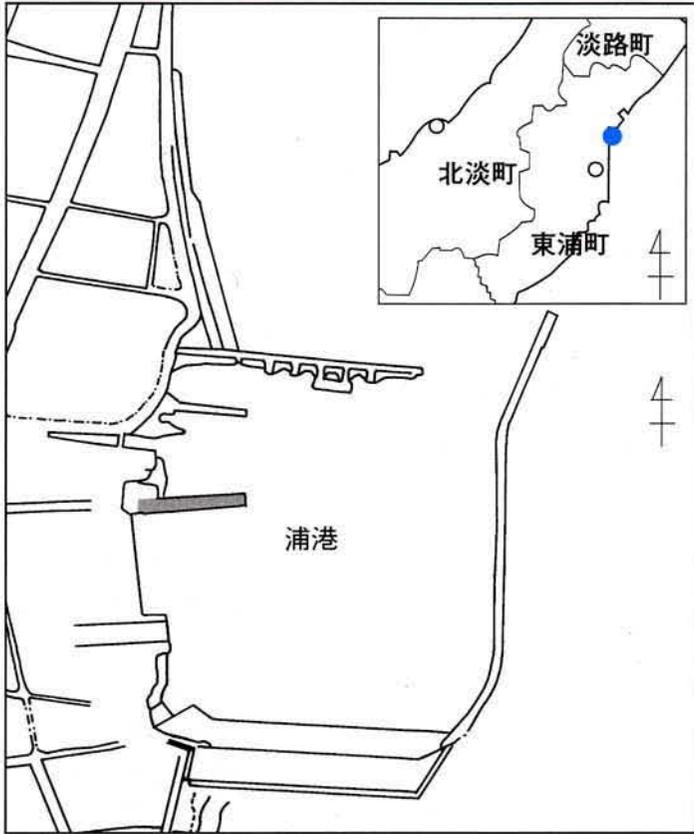




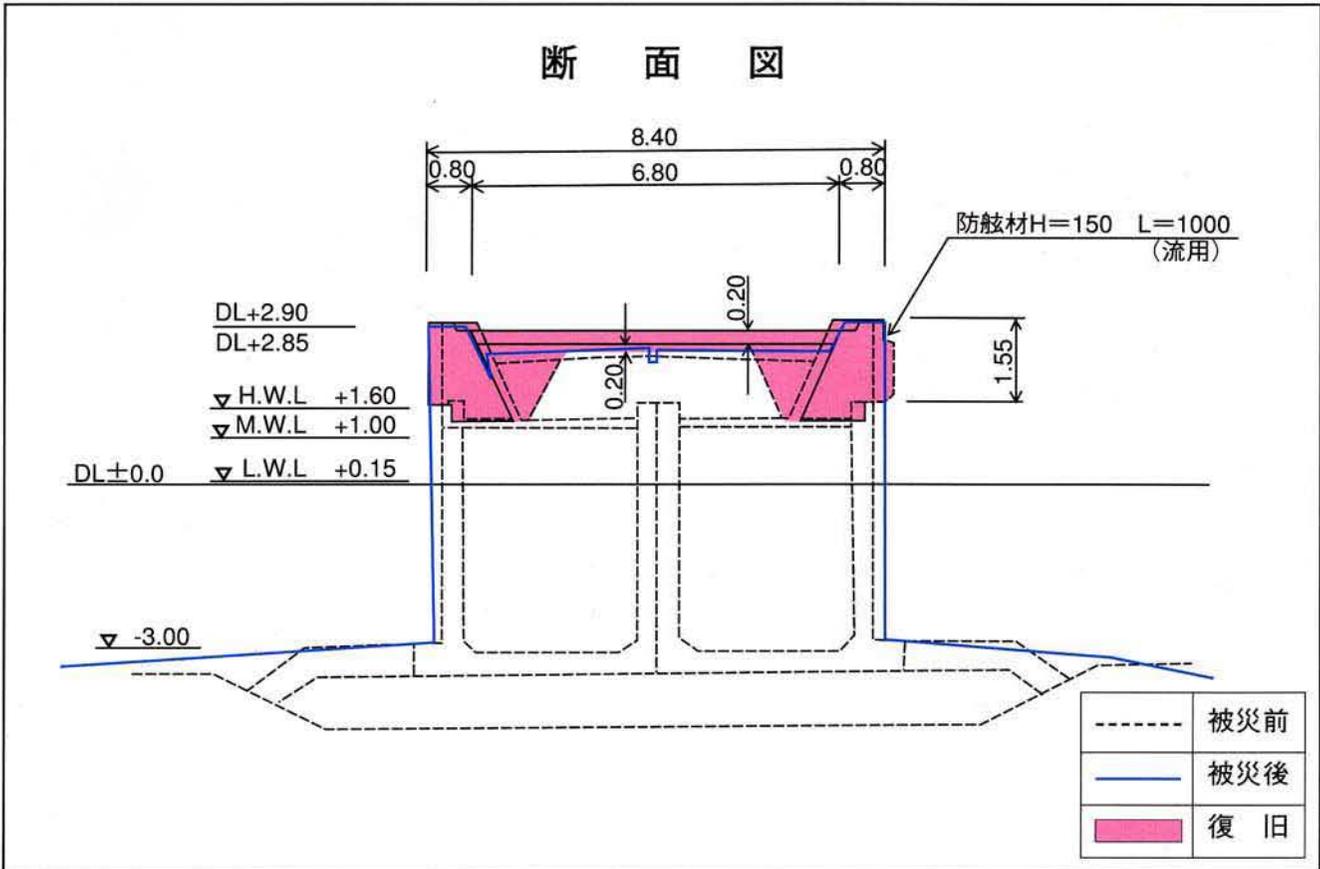
浦港

物揚場（-3m）

上部工両側に20～40cm開き、エプロン舗装全体に15～20cmの沈下ならびに目地開きしている。



**工法決定理由**  
 本體工安定のため上部工、舗装工等を原形復旧。



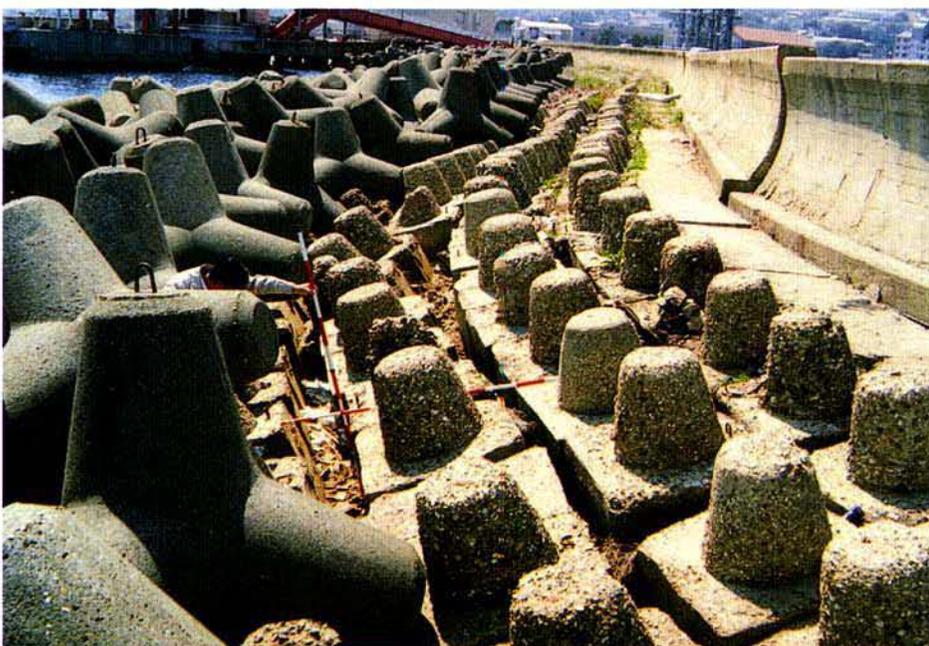


楠本海岸  
護岸  
本体工と水叩工に生じたクラック  
および目地開き

背後地の沈下および地割れ

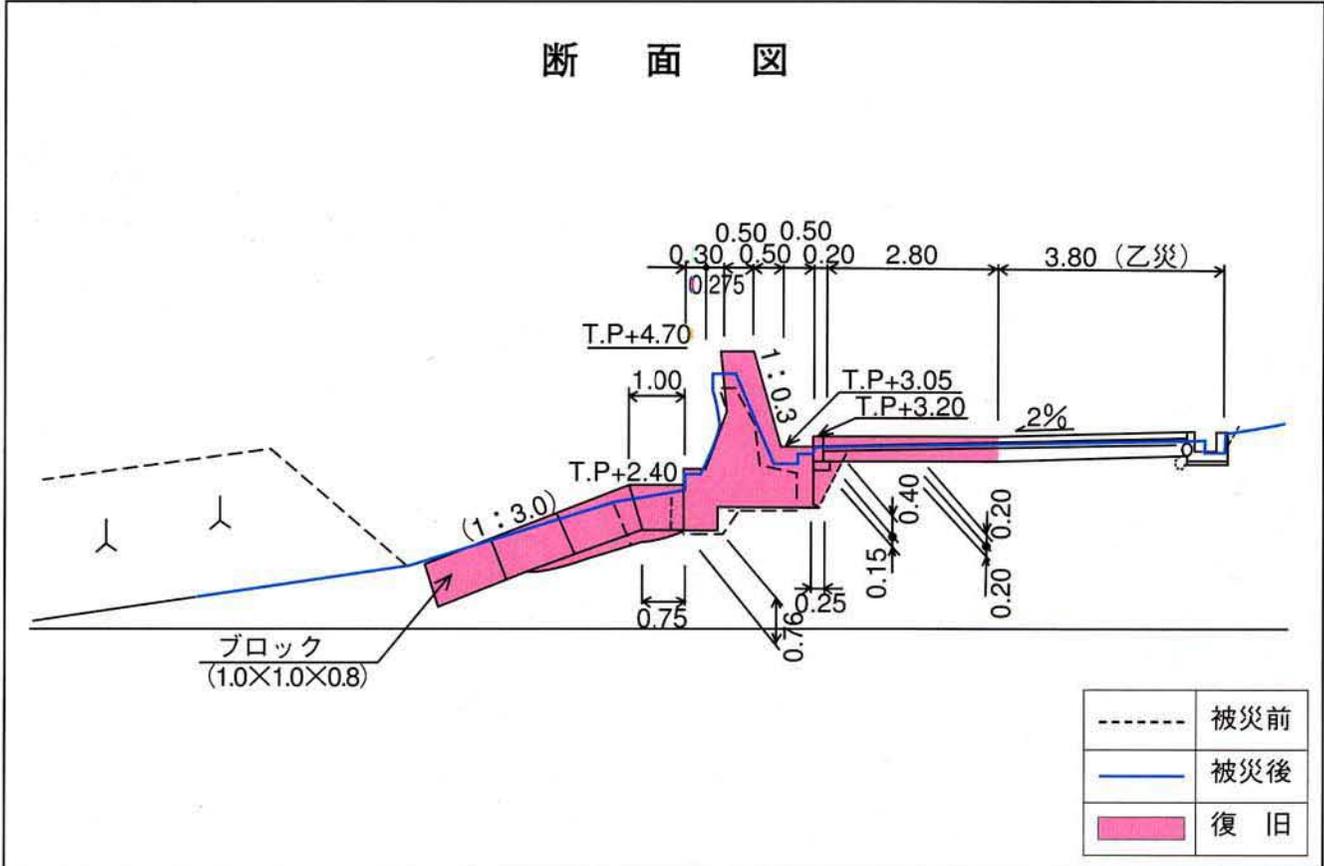


被覆ブロックの沈下および滑動





**工法決定理由**  
 本工事沈下のため、護岸必要  
 高さで原形復旧。



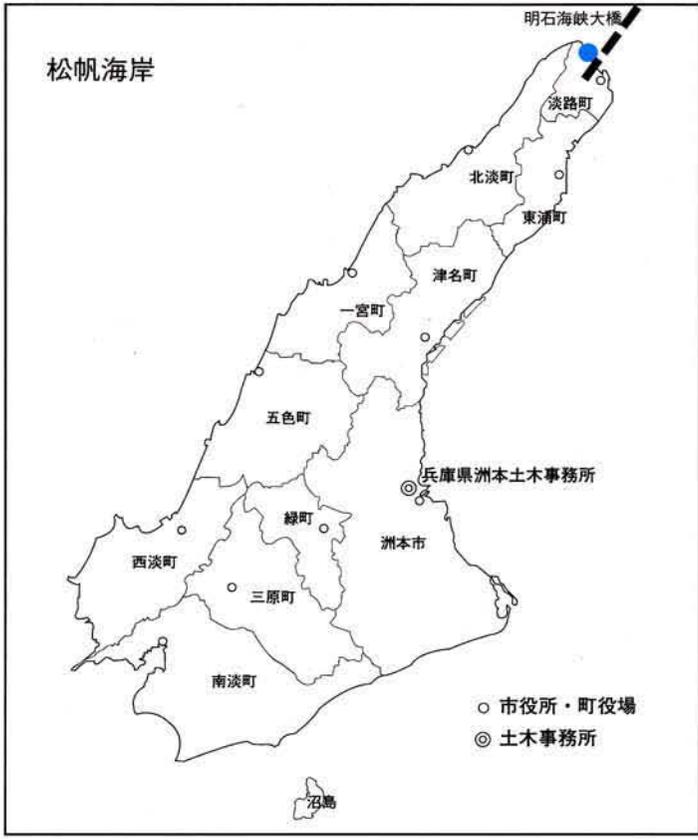


松帆海岸  
護岸  
堤体の移動により目地部で隙間が  
広く開いている。

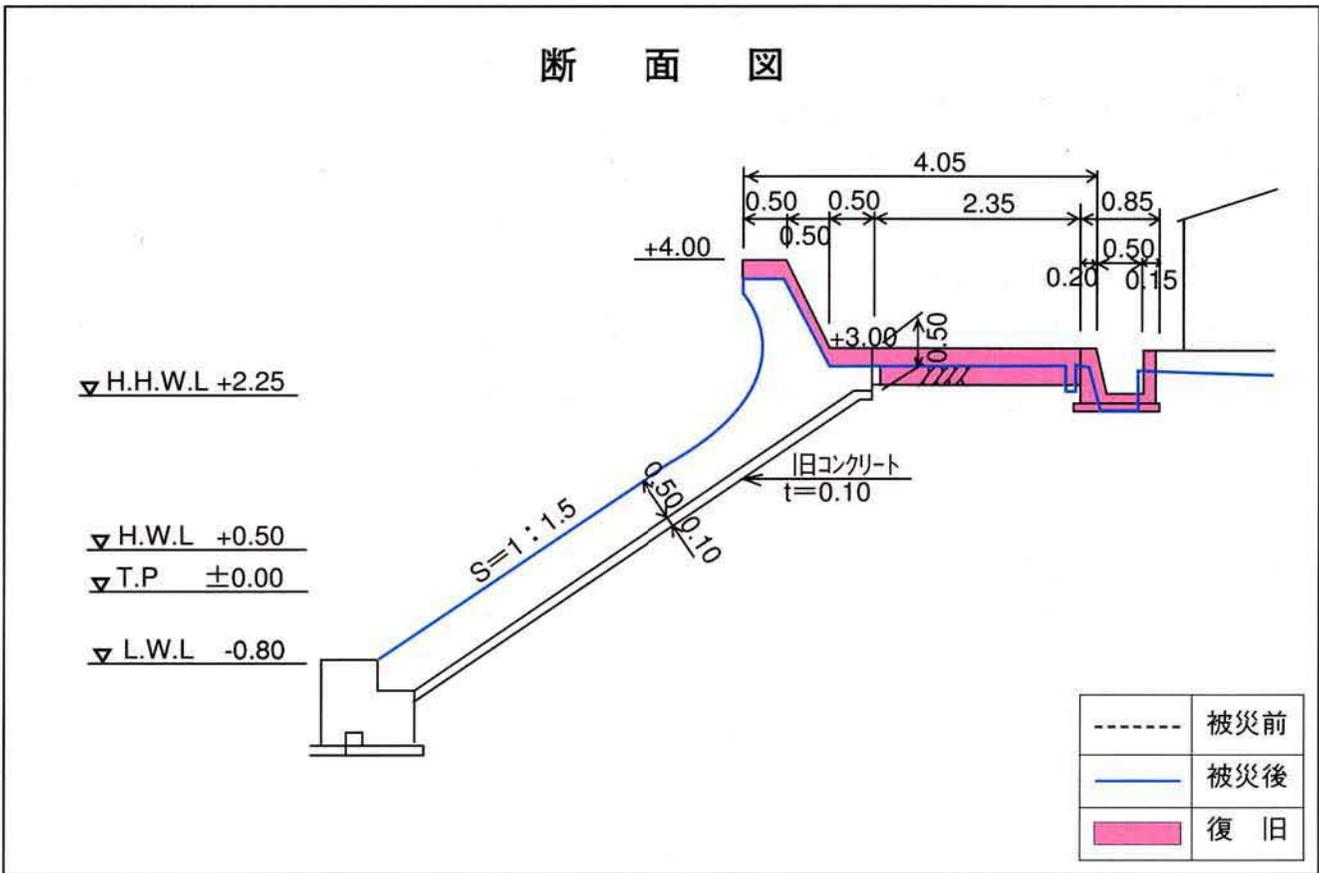
水叩きが沈下し、堤体との間に  
隙間が生じた。排水溝は沈下  
により変形した。



背後地に50cmの段差が生じた。



**工法決定理由**  
 堤体は、亀裂の入っている所や目地の開きの大きい所を取り壊して打ち直すこととした。また、計画天端高より沈下している所は嵩上げを行うこととした。水叩きや排水溝については、目地の開きが大きく、空洞化も著しいため、取り壊して打ち直すこととした。



洲本土木管内 運輸省所管港湾施設復旧フロー  
岸壁・物揚場のケース

災害発生

